



発行人 福島県教職員組合  
発行所 福島市上浜町10-38 電話024-522-6141  
〔定価一部 20円〕  
編集・責任者 五十嵐 史郎  
e-mail: ftukyoso@poplar.ocn.ne.jp  
(この購読料は組合費に含まれています。)

ゆとりある職場を目指して  
**ストップ!**  
The **多忙化**  
& **過重労働**  
No. 3

# 11月の「超過勤務」は何時間?

中央委員会で決定された「多忙化・過重労働」の解消の取り組みでは、11月を、「出退勤時刻」を記録する期間としました。その記録から、11月の自分の1ヶ月の「超過勤務」の時間を計算しましょう。

前号の「ゆとりある職場を目指して ストップ! The 多忙化&過重労働 No.2」では、「出退勤時刻記録ソフト・元気にカエルくん」の紹介をしましたが、あのソフトで記録をすれば、計算は自動的に行われます。



## みなさんの状態は?

**月100時間**を超えると、**脳血管障害や心疾患**の危険性が高まるといわれています。

※ 事業者は、労働者の週40時間を超える労働が1月当たり100時間を超え、かつ、疲労の蓄積が認められるときは、労働者の申出を受けて、医師による面接指導を行わなければならない。

**月80時間**は、「**過労死ライン**」と言われています。

※ 労安法では、月80時間を超える超過勤務を行った場合、事業者は労働者の申し出により、産業医による面接を行うように努めなければならないとされています。

**月60時間**を超えると、「超勤**手当**」が**150%の割り増し**となります。

**月45時間**が、労働基準法による**超過勤務の上限**に当たります。

※ 通称「36協定」でも、この45時間が上限とされています。(2面を参照)

45時間、60時間、80時間、100時間は、法的な根拠、臨床的な根拠があるのです。自分では大丈夫だと思っても、脳梗塞や心筋梗塞は、突然襲ってくるものです。

**45時間**には、このような根拠があります！

**「過重労働による健康障害を防止するため事業者が講ずべき措置等」** 2002年2月12日 厚生労働省通知

(抜粋)

「1 趣旨」の中で

・・・おおむね**45時間**を超えて時間外労働が長くなるほど、業務と発症との関連性が徐々に高まる。

「2 時間外労働の削減」の中で

・・・時間外労働がつき**45時間**を超えて長くなるほど、業務と脳・心臓疾患の発症との関連性が強まると判断されることを踏まえ・・・

**「36協定」(労働基準法第36条「時間外及び休日の労働に関する協定」)**

(抜粋)

(限度時間)

第3条 前条による時間外労働は、1日8時間、1ヶ月**45時間**(起算日：毎月1日)、1年間360時間(起算日：4月1日)を限度とする。また、休日労働は、1ヶ月に2日を限度とする。

(特別条項)

第4条 第2条第1号から第7号において臨時的な事情が生じた場合、甲と乙が別に協議し、更に1ヶ月30時間を限度として延長することができる。この場合においても、1年間で延長できる回数は6回までとし、年間総時間外労働は360時間を超えないものとする。ただし、緊急やむを得ない場合には、事後に乙に通知することとする。

※ 月**45時間**を超えている場合は、事業主は適切な措置を講じ、勤務の見直し改善を行うように努めなければならない。

**まずは自分で!**

**月45時間を超える超過勤務がある場合は、その要因(思い当たる要因をすべて)を書き出してみましよう!**

- 出張の回数調査
- 補欠案の作成回数と問題点の洗い出し
- 外部からの調査・作品募集等の実態と問題点の洗い出し
- 職場の労働環境の見直しと問題点の洗い出し

\* 負担になっている業務の洗い出しと問題点の整理に加えて、可能なところで、上の点についてもチェックしてみましょう。

**次は職場で!**

**職場会を開いて、職場の問題について話し合い、改善すべき点をまとめてみましょう。**

- ※ 改善すべき課題のチェックシートを作成し、全分会に配布する。
- ※ 以降、職場会での定例の話題とすること。

**学期末の職員会が大事です!**

**教育課程編成へつながり、それは、来年の1年に影響します**

職場会でまとめたことを、ぜひ学期末の職員会・・・つまり、2学期の反省、教育課程の実態調査の結果の考察、などのときに、意見として出しましょう。

3学期から改善できるものもあるかもしれませんが、ちょっとした軽減も、積み重なれば大きな改善につながります。私たちの「多忙化」「過重労働」は、こうして、ちょっとしたことの積み重ねという見方もあります。その解消も、そういう1つ1つ小さいことの積み重ねで、実現できるはずです。